

3. ミズベ会議

昨年実施した2回の水辺会議で得られた12のバリューと8つの支える仕組みや、報告書で提出されたビジョンのパスなどを踏まえて、それらがもたらすまちの価値について再認識と、それぞれの参加者が主体的に水辺のまちづくりに参加するためのきっかけ作りとして第3回水辺会議と協議会設立に向けた意見交換会を実施した。

3.1. 第3回水辺会議

社会実験実施にあたり、これまでの取り組みと先行事例を紹介し、市民が主体的に水辺のまちづくりに参加するためのきっかけ作りを行うために第3回ミズベ会議を実施した。

日時：2017年8月3日 18時半～21時

場所：みんなの学校 2階

水辺プロジェクトのこれまでの取り組みや去年の振り返りについてプロジェクト事務局より発表後田中謙次氏による講演を実施した。「霞が関が驚いた！リバービジネス創出にむけた取り組み」をテーマに、地元福井県越前市の事例等を交えて講演いただいた。

9月末より開催する社会実験についてプロジェクト事務局より説明後、グループワークを実施した。「食」「環境」「水上アクティビティ」「イベント」の4つのグループに分かれ、ディスカッションを行い、最後に発表した。



参加人数37名（事務局含む）

3.2. わかやま水辺協議会（仮称）創設に向けた意見交換会

河川敷地占用許可準則が改正され、公共機関しか使えなかった、河川空間を民間が使えるようになり、河川空間のオープン化が進んでいる。河川を使って町の魅力を盛り上げて行くためには、中心市街地がどうあって欲しいかそれに向けた水辺がどうあって欲しいかを考えるのが協議会の役割である。それについての意見交換会を実施した。（6.3 参照）

日時：2018年1月25日（木） 1回目 16:00～17:30 2回目 18:30～20:00

場所：みんなの学校 2階

ゲストには、大阪市大正区役所の副区長、内山泰博氏に来て頂き、大正区の尻無し川で実施している活動についてお聞きした。2012年5月に地域の合意も得ていない中で区長が

やりたいと、白鳥のペダルボート浮かべたところ、京セラドームに行く人が興味を示し500人くらい集まったのにポテンシャルを感じスタートした。大正リバーサイドポセイドンは1万人以上の来場があり実績を積み上げ、ここを拠点にしてスタートした。準則特区を取り都市再生等区域指定を受け27年6月～10月まで社会実験を実施したそうである。区のPRもしっかりとし平成29年は人口が増加に転じた。というお話を聞いた。その後水辺プロジェクトより他都市の事例を紹介し、意見交換会を実施した。

会場に住民の方がきておられ「音楽が家の中にズカズカ入ってくる。日常生活ができない。切実なるお願いである。悲しい思いをしている。最低限のお願いがあつて来た。」と訴える場面があった。

社会実験で常設のSUPカフェを営業してくれた大江さんは、「思ったより人通りが少なくSNS発信もしたが、何をやっているのか伝わってなかった。自分たちもあの場所をやっていきながら作っていき、完成した頃には終了、というような感じがした。認知されるまで続けて行くことで来客も増えていった。時間がかかる取り組みだと思うと語った。他にも観光資源として和歌山市の取り組みに注目しているが、かなり長期で取り組んで行く必要がある」との意見もあった。



参加者数 1回目23人、2回目15人 事務局7人 大正区3人 他市職員数名